

《令和7年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和7年8月20日（水）

時 間：14:00～16:00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和7年度 第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化・知識向上

参加者：60名

阿南市内の医療従事者・薬局従事者・歯科従事者、阿南市内の福祉・介護従事者、阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、阿南市地域共生推進課・介護保険課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

【講義1：身寄りのない方の対応について】

講師：阿南市権利擁護センター所長 大坂 和弘 氏



阿南市における各種機関の概要説明から取り組み内容の講義を頂いた。阿南市の支援窓口の地域まるごとサポートセンター（通称：まるサポ）、対象者は複雑・複合的な課題を抱える方、ひきこもり状態の方などであり、支援内容は専門機関による支援チームの編成によるアウトリーチ（訪問）支援、「断らない福祉相談窓口」として柔軟

な対応を行っている。相談方法は窓口・電話・メール・訪問対応で管轄はあり保健福祉部 地域共生推進課である。阿南市社会福祉協議会の取り組みとして、阿南市権利擁護センターは成年後見制度の活用（認知症・知的障がい・精神障がいなど判断能力が不十分な方への支援）を行っている。日常生活自立支援事業として福祉サービスの利用援助、自立した生活の支援を行っている。ご近所ヘルパー事業として65歳以上のひとり暮らしの方対象買い物・掃除・ゴミ出しなどを週1回訪問支援、利用料：30分以内100円、30分以上1時間未満200円。国のガイドライン（厚生労働省）では、医療機関での入院・治療に関する意思決定が困難な方への支援指針、身元保証人がいないことを理由に入院拒否しないよう通知されており、成年後見制度や意思表明文書の活用を推奨としている。



阿南市は、地域福祉の連携を重視し、制度の狭間にいる方々にも包括的な支援を届ける体制を整えているが、身寄りのない人の問題は地域課題であり、その地域の自治体、医療機関、福祉関係者等の垣根を超えた連携で解決できることも多いので、今回の研修等を通じて、今後、阿南市でもガイドライン作成や、エンディングノート、ACPの利用支援・普及啓発などに繋がればと多職種連携の構築が重要性である。最後にケアカフェにより阿南市の多職種連携が強化されているので継続して行って欲しいとの言葉があった。



【講義 2：グループワーク】



グループワークでは、講義1での学びを踏まえ8班で医療従事者と介護従事者等が均等に分かれ、2つの項目（①身寄りのない方の対応で、困難・上手くいった事例 ②今後、身寄りのない方の対応に対して希望・要望すること）について話し合った。

①については困難であったことが多かった。特に生活保護受給者は市の介入があるが

生活保護受給者以外の身寄りが無い方は介入ができないと相談には乗って頂けるが最終的な同意や支払いで問題を生じることが多い。民生委員等の協力も得られるが全てを民生委員にお願いできない。また家族の疎遠化により身寄りが居ても協力が得られないケースも多くなっている。上手くいっていることは、徳島市では保証人が無くても施設入所・利用できる施設があるので、阿南市内で対応できない場合は利用している。また、ケアカフェ等で顔と顔の見える関係づくりで悩みや対応方法の共有等ができ連携が上手くいっている意見もあった。



②については身寄りのない方が増加傾向であるので、他市ではバックアップ及び死後等に対する専用窓口もあるので阿南市にも設けて欲しい。緊急搬送等で身寄りが無いので断ることはないので、対応等への仕組みを作って欲しい（医療機関・福祉・介護事業所等向けの対応リーフレット。身寄りが無い住民向けのリーフレットの作成）。ACPの普及、

個別避難計画の作成により今後の連携の向上が期待できるので普及に力を入れて欲しい。また、阿南市の交通資源の減少により病院や施設での滞在時間が長く、送迎業者等への連絡・相談等の業務負担も多いので改善検討をして欲しい等の要望があった。

【総評】

医師会・薬剤師会・歯科医師会・福祉・介護事業所へ各機関の協力により多数の応募を頂き、会場定員数もあり参加人数の調整を行い開催したが関心の深さを感じた。

講義では身寄りのない方への対応の組織や取り組み内容の説明、事前質問への回答などを分かり易くして頂き、多職種連携による効率かつ迅速に対応への向上に繋がったとの声が聞けた。

グループワークでは各分野の事例や要望等を意見交換することで互いの理解、顔と顔の見える関係づくりができたことで「今後はより詳細な連絡を密にして連携をしましょう」とコミュニケーションを図れたことで連携強化も図れた。

多職種の良い連携に繋がり、地域住民の皆様が在宅での生活が長く継続できるよう、専門性を高める良いケアカフェとなった。

今後もケアカフェ等を開催し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【研修会風景】





研修動画は[阿南市在宅医療・介護連携支援センターYouTube](#)でご覧いただけます。

報告者:センター長 湯浅 祐司